

## 辺野古新基地は中止を

写真は朝日新聞 4 月 8 日朝刊に掲載された意見広告。「辺野古新基地は中止 普天間吉は撤去を」と。この意見広告は全労連などが呼びかけたもので、多くの労働組合などの団体や個人の賛同金によるものである。南側北側の 2 本の滑走路など、巨大な辺野古の海を埋め立てる新基地建設がイメージできる。

この写真を見ていて、3 月 27 日の「天声人語」を思い出した。切り抜いていたので紹介したい。

一度言ってみたい言葉に「金に糸目はつけない」がある。惜しげもなく、いくらでもお金を使おうという太っ腹。もとは凧揚げから来たようで、糸目とは凧につける数本の糸のことだ。糸目のない凧はコントロールを失い、勝手に飛んでいく▼「税金に糸目はつけない」。そんな声が政府から聞こえてくるようだ。沖縄県・辺野古の海を埋め立てようと、土砂の投入が続いている。日本の税金でつくる米軍基地なのだが、政府は総工費すら明らかにしていない▼難工事ゆえ、一体いくらかかるのか現時点で言えないらしい。埋め立て予定地の一部に「マヨネーズ並み」の軟弱地盤があると分かり、7 万本の杭を海底深くまで打ち込もうとしている。国内では前例のない作業という▼税金の投入がどこまで膨らむか、全くめどが立たないまま進む。そんな大規模事業などありえないと思っていたら、あった。高速増殖炉もんじゅは 1 兆円超をのみ込んだ末に、ほとんど運転できず廃炉となった。巨大すぎる反面教師である▼お金よりもひどい話は、沖縄の民意を無視し続けていることだ。岩屋毅防衛相は最近の記者会見で、「沖縄には沖縄の民主主義があり、国には国の民主主義がある」と述べた。知事選も県民投票の結果も、あくまでよそごと。閣僚がここまであけすけに語るとは▼野党に勢いはなく、与党の中にもいさめる者がいない。沖縄の空に、安倍晋三政権という暴走気味の凧が飛んでいる。まずはこの政権に、糸目がいる。

長年にわたり公共事業を研究してきた者として、こんな杜撰きわまりない事業が沖縄の民意を無視して、強引に進められていることに心の底から腹が立つ。「沖縄に寄り添う」といった防衛相だけでなく、安倍・菅らの動きをしっかりとチェックしていきたい。

(2019 年 4 月 12 日)

